

みんなで ともに 乗り越えよう

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。その中で、町がどのような取り組みをしているのかをお知らせします。

町長が「復興加速化」に関する要望を行いました

自民党福島県議会議員会ふくしま復興本部による要望聴取会が4月17日、役場二本松事務所会議室で行われました。要望聴取会には、小松山善継本部長はじめ福島県議会議員6名と馬場町長ら町関係者が出席しました。町長は、町の現状等を説明し、「町の状況をご理解いただき、町の復興加速化のために力添えをお願いしたい」と述べ、「復興加速化のための要望書」を小松山本部長に手渡しました。



ふるさとを離れ、ふるさとを想いながら避難先であたにスタートした企業・店舗の皆さんを応援してください。
掲載ご希望の企業・店舗の方は、ご連絡ください

手塚クリニック

手塚 徹
〒960-8252 福島県福島市御山清水尻51
TEL 024 (535) 0550 FAX 024 (535) 5550

町内で「ふたば復興生コン」が操業します

「ふたば復興生コン」の工場が、10月の稼働開始に向けて高瀬行政区に建設中です。地域の復旧・復興工事やインフラ整備工事に必要不可欠なコンクリート。浪江町内では初めての生コン工場です。建設工事のためトラックの往来がありますので、町内立入りの際はご注意ください。今後も広報などを通して進捗状況をお知らせします。

*この工場は、「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」を活用して相双生コンクリート協同組合により建設されています。

※「ふたば復興生コン」では7月採用の正社員を募集しています。詳しくはお問い合わせください。



問 産業・賠償対策課商工労働係
TEL 0243(62)1106

なみえの あの店この店

問 復興推進課情報統計係 TEL 0243(62)4731

町の農業再生に向けて

稲の作付けを行いました

昨年に引き続き、今年も酒田地区で稲の作付けを行いました。震災後初の作付けとなった昨年は、収穫された米の全てが放射性物質の基準値を大幅に下回りました。今年は、震災後初となる米の販売を目指して、同じ農地で実証栽培を行います。今年も、苗を移植する従来の栽培方法に加え、育苗や苗の移植が不要な直播栽培も行い、省力化により大規模な営農を可能

とする栽培方法を検討します。また、昨年安全性が確認された井戸水を用いた栽培に加え、請戸川の水を利用した試験栽培



田植えの風景（5月18日）

酒田地区の水稲栽培地図



- ①、②：実証栽培、
- ③直播による実証栽培、
- ④河川水を利用した試験栽培

を行い、河川水利用の安全性を確認します。作付け総面積は約1.3ha（昨年は約1.2ha）。栽培農地は、地図上の4か所です。

酒田地区、高瀬地区で農地保全活動が始まりました

酒田地区、高瀬地区では、農事復興組合による除染後の農地の保全活動が始まっています。



保全活動が行われた高瀬地区の農地

高瀬農事復興組合の込堂組合長は、「昔の高瀬の農地にしたくて、皆さんと復興組合を立ち上げ、組合員の方々と保全活動を始めました。農地を美しい姿で次の世代に残していきたいので、これからも組合員の皆さん

と保全活動を続けていきたい」と述べ、今年度から保全活動を開始しています。

環境省福山政務官が景観作物の視察に訪れました

4月16日、酒田地区で栽培された景観作物（なたね、レンゲソウ）の視察のため、環境省の福山政務官が浪江町を訪れ、馬場町長、栽培者の松本氏と会談を行いました。

馬場町長と松本氏からは、除染で土地が痩せていることや、環境省には農水省と連携して除染後の農地の地力回復に取り組んでいただきたいことの説明があり、福山政務官は、縦割り行政ではなく、協力して取り組んでいきたいと回答されました。景観作物はこの後働き込まれ、地力を回復させるための養分となります。

酒田地区で会談する馬場町長（左）と環境省福山政務官（右）後ろには、花を咲かせたなたねが一面に広がっています



問 産業・賠償対策課農林水産係
TEL 0243(62)1107